

農推第1524号
令和8年5月22日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病虫害発生予察注意報第1号

- 1 病虫害名 果樹カメムシ類
- 2 対象作物 果樹全般（うめ、もも、なし、かき、ぶどう、みかんなど）
※特に5～6月はうめ、もも、なしで被害をうけやすい。
- 3 発生地域 府内全域
- 4 発生量 多い
- 5 注意報発令の根拠
 - (1) 今年度のチャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺頭数が、5月上旬以降平年値を大きく上回り、5月中旬には羽曳野市で平年値のおよそ4.9倍、岸和田市で平年値のおよそ8.4倍となった（図1）。
 - (2) 今年度のツヤアオカメムシのフェロモントラップ誘殺頭数が、5月上旬以降平年値を大きく上回り、5月中旬には羽曳野市で平年値のおよそ2.7倍、岸和田市で平年値のおよそ23.3倍となった（図2）。
 - (3) 今年度のチャバネアオカメムシの予察灯誘殺頭数が、5月第3半旬（5月11日～15日）には羽曳野市で7頭となり、平年値のおよそ10.0倍と大きく上回った。

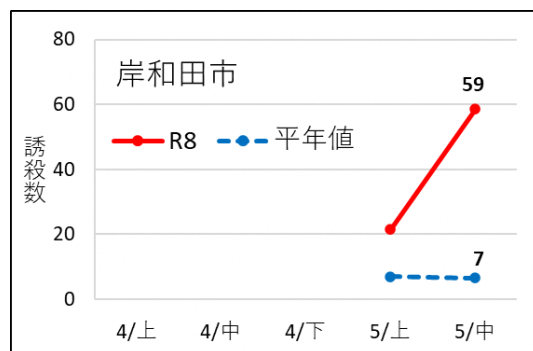
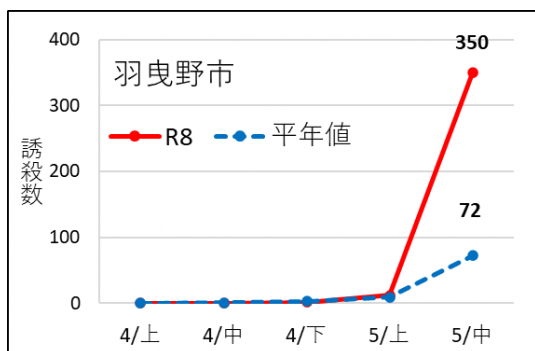


図1 チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数

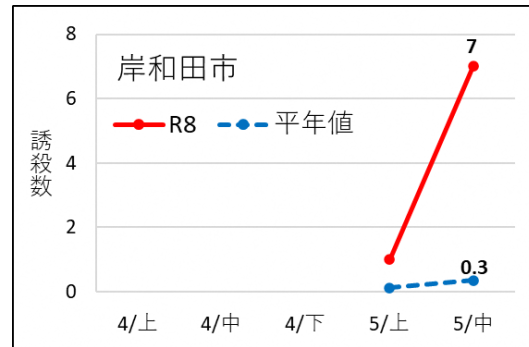
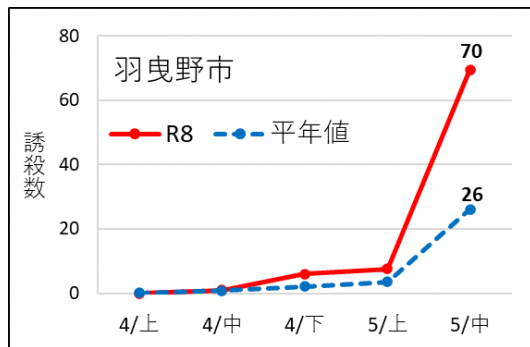


図2 ツヤアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数

6 生態

- (1) 果樹を加害する果樹カメムシ類には、チャバネアオカメムシ（写真1）、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ等がある。大阪府内で確認される果樹カメムシ類の大半はチャバネアオカメムシである（写真2）。
- (2) 果樹カメムシ類の主なえさは、夏期のスギやヒノキ等の球果である。果樹園でも産卵は行われるが、成虫までは発育しない。越冬密度が高いと春から夏にかけて果樹園に飛来し、うめやもも等の果実を吸汁し、落果や奇形果等の被害をもたらす。スギやヒノキ等の球果が多い年は夏に個体数が増加し、その後、えさが不足すると果樹園に飛来して果実を加害する。
- (3) 5～6月の飛来では、うめやももなどの核果類や、なし等が被害を受けやすい（写真3, 4, 5）。多発するとぶどう、かんきつ類にも被害が及ぶことがある。
- (4) 袋かけをすると被害を軽減できるが、果実の肥大に伴って果実袋と果実が密着すると、果実袋の上から吸汁されることもある。
- (5) 果樹カメムシ類の果樹園等への飛来は日没後の2～3時間が中心である。



写真1: チャバネアオカメムシ



写真2: 羽曳野市の調査地点で
誘殺された果樹カメムシ類



写真3: うめを加害する様子



写真4: ももの被害
(果実表面がデコボコになる: 丸印が被害箇所)
※大阪府植物防疫協会 提供



写真5: うめの被害
(吸汁痕からヤニが出ている様子)

7 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類の発生量や時期には地域や園地で差があるので、カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、飛来を確認したら、速やかに薬剤散布を行う。薬剤散布後も園内を確認し、再度飛来を確認した場合は、追加の散布を行う。薬剤散布に当たっては、収穫前日数や使用回数に十分注意する。（別添表「カメムシ類の防除薬剤例」参考）
- (2) 果樹カメムシ類に有効な薬剤は、有機リン系薬剤、ピレスロイド系薬剤、ネオニコチノイド系薬剤等である。多発時には、残効性が比較的高いネオニコチノイド系薬剤、ピレスロイド系薬剤を中心に散布する。
- (3) ピレスロイド系薬剤は果樹カメムシ類への効果は高いが、天敵類への影響も大きく、連用するとハダニ類やカイガラムシ類の多発を招くことがあるため、なるべく連用を避ける。
- (4) 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。
- (5) チャバネアオカメムシに対しては、黄色灯は忌避効果があるため、設置している園地では早急に点灯する。ただしチャバネアオカメムシ以外には効果がないため、光源近くや園内でクサギカメムシやツヤアオカメムシ（下記カラー技術資料参照）を確認した場合は薬剤散布を行う。
- (6) 果樹園全体に目合い4mm以下のネットを被覆することで侵入を阻止する。

※参考：カラー技術資料「果樹カメムシ類 生態と防除対策

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/kajukame_osaka.pdf



<別添> カメムシ類の防除薬剤例

登録は令和8年5月13日現在

作物	薬剤名	系統 (IRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用 回数
もも	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2000～ 4000倍	収穫前日まで	3回以内
	アディオン乳剤	ピレスロイド(3A)	2000倍	収穫7日まで	6回以内
	テッパン液剤	ジアミド (28)	2000倍	収穫前日まで	2回以内
かき	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド (4A)	5000～ 10000倍	収穫7日前まで ※1	3回以内
	アディオン乳剤	ピレスロイド(3A)	2000～ 3000倍	収穫7日前まで	5回以内
なし	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2000～ 4000倍	収穫前日まで	3回以内
	アディオン乳剤	ピレスロイド(3A)	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	テッパン液剤	ジアミド (28)	2000倍	収穫前日まで	2回以内
ぶどう	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド (4A)	2000～ 4000倍	収穫前日まで	3回以内
	テッパン液剤	ジアミド (28)	2000倍	収穫前日まで	2回以内

みかん	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 (かんきつ)	ネオニコチノイド (4A)	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	スミチオン乳剤 (みかん)	有機リン(1B)	1000倍	収穫14日前まで	5回以内
	スミチオン乳剤 (かんきつ(除みかん))	有機リン(1B)	1000倍	収穫14日前まで	3回以内
	アディオン乳剤 (かんきつ)	ピレスロイド(3A)	2000倍	収穫14日まで	6回以内

※1. 露地栽培については発芽期から開花期を除く

最新情報は農林水産省「農薬登録情報提供システム」で確認してください。[\(https://pesticide.maff.go.jp/\)](https://pesticide.maff.go.jp/)